

釧路市立音別中学校

(昭和二十二年五月)

本校は、戦後の教育制度の改革に伴い、昭和二十二年に村立音別小
学校に併設、開校した。

昭和二十二年 五月 四日 音別村立音別中学校として、音別小学校
に併設して開校した。(二学級)

二月一日 校舎建築委員会結成

(委員長 紅林 鉄雄村長)

二三年 六月一日 中音別旧軍馬補充部厩舎を改造した独立
校舎落成

二七年 三月 四日 十勝沖地震により校舎破損

四月 一日 音別村立音別中学校直別分校設置

二九年 六月三〇日 直別分校が音別村立直別中学校として独
立

三一年 一月 一八日 新校舎落成・開校十周年記念式典

三二年 一月 五日 校歌制定

三三年 三月 一八日 校旗制定(第十一次卒業生寄贈)

三四年 一月 一日 町制施行により、音別町立音別中学校と
改称

三六年 四月 一日 音別町立直別中学校を統合

四二年 一月 二五日 開校二十周年記念式典

五三年 二月 二三日 校舎全焼

五四年 一月 二〇日 音別小学校の校舎を借りて授業再開

二月 二一日 新校舎落成

六二年 八月 一〇日 第一回鳴門市親善交流団に参加、以後数
度にわたって交流を続ける。

平成 五年 一月 二二日 徳島県鷺敷町との交流団派遣

二月 二五日 鷺敷町町立鷺敷中学校との親善交流開始

以後今日まで交流を続ける。
平成 九年 一月 二三日 開校五十周年記念式典
一一年 一月 二一日 市町村合併により、釧路市立音別中学校
と改称

音別中学校教育のめざす姿

一 「まち(地域)の学校」の基本理念

緑やわらかな音別川河畔の空気に包まれたゆとりのある校舎。歌
声や響き、知恵と教養を得ようと生徒は集う。生徒たちは語り合い、
またグラウンドで汗を流し、それぞれが夢を目指す。教師たちは笑
顔で応え、また学びの中で良さを伸ばす。父母は、子の未来を見つ
めながら見守り、地域の人は成長を楽しみにしながら活力ある町づ
くりを励む。街角には小さな子らが親と居て、笑顔で会話している。
生徒たちは、地域(まち)の学校で、故郷を誇りにして地域(ま
ち)の人と共に豊かに学び続けるのである。

二 学校教育目標

◎ 心豊かな人 人格を尊重し、協調友愛の精神を持つ生徒
を育成する。(情)

◎ 深く考える人 自主性を尊び、知性に富む生徒を育成する。
(知)

◎ 礼儀正しい人 礼儀を重んじ、情操豊かな生徒を育成する。
(意)

◎ 実践力に富む人 心身共に健康で、剛健な気風に溢れる生徒
を育成する。(体)

三 今と未来を生きる生徒のめざす姿

◆ 心豊かでたくましい心身を養い、他人を尊重する生徒
◆ だれに対しても思いやりを持ち、礼儀正しい生徒

と遊ぶのは、太陽の下でなければできない。今で言う生徒指導の原点
を教えられた。

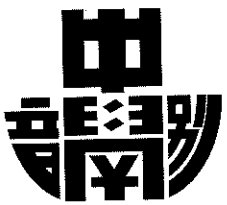
学校周辺は野原、やや湿原気味。遠く山並み、点在する農家、野
に遊ぶ牛馬、牧歌的な雰囲気であった。楽しい二か年をそこに過
した事は教員生活の大事な出発点だったのだ。

山奥の中音別から引越してきたばかりの新校舎だ。グラウンドは
未整備で炭ガラ土壌だったから転ぶと切り傷が絶えない毎日だった。
野球部をはじめ、バスケット、バドミントン、果てには演劇指導にも
携わった。村内陸上大会で、尺別中学と壮烈な争いで初優勝をもち取っ
たこともある。

そんな折、頑張る生徒たちへの讃歌として、校長の作詞、植松教諭
の作曲による校歌作成が決定した。校長は旧制佐渡中学卒業で、検定
上りの努力家。日常勤務には厳しかったが、優しさを秘めた武士的
な風貌と瘦身の体軀。校長は『生徒は、学問と体育が大事と力説、今
後の生活を継続する中で徳育は身につくもの』とし、作詞も重要な事
項順に配置された。校長の子供に対する思い、希望、成長の方向性を
周囲の風情を工作しながら作詞された。われわれが驚いたのは、普通
は一番、二番と標記されるのが、知・徳・体で表現されていたことだ。
大変だったのは植松教諭で、夜遅くまで職員室のピアノに向かい努力
した。約二か月の期間で作曲したと記憶している。校内研修後の語
り合いの中で校歌の話になり、作曲の出来具合を探ることとなって原々
案の発表の機会が設けられた。音楽に不案内のもの同士が注文をつけ
歌いやすいか？中学生の声は出るか？もう少し滑らかにしてはなどと
いろいろ出たが、校長が一言『素晴らしい』で、ここをめでたく校歌
が誕生した。皆に何時までも愛され歌われるメロディを作曲した植松
先生に拍手喝采であった。正式には、昭和三十三年十一月五日に校歌
が制定され、作詞近藤貞雄、作曲植松芳夫として未来永劫に残ること
になった。

参考資料 開校五十周年記念誌「清霄」(平成九年十一月)

学校保存文書



校章

- ◆ 自分の考えを積極的に発表し、よい習慣をつくる生徒
- ◆ 何事にも真剣に取り組み、最後まで責任をもってやり抜く生徒
- ◆ みんなのきまりを守り、よいことを進んで実行する生徒

学校保存文書には、昭和三十三年
三月十八日、第十一次卒業生の寄贈と
ある。制定日は同日、作者、制作の意
図は不明である。

校歌の制定

校歌は昭和三十三年十一月五日に制定された。近藤 貞雄作詞、植
松 芳夫作曲による作品である。作詞者は本校第二代校長近藤貞雄先
生であり、植松氏も本校教諭である。この校歌に最初に出会って眼を
瞠ったのは、第一節から三節冒頭に「知育」「徳育」「体育」と明記し
てあることである。校歌制定時本校に勤務されていた元釧路町立富原
中学校長佐藤靖昌先生が往時を偲び、筆者に送っていただいた書簡を
披露したい。そしてこれは校歌に関する貴重な証言である。

「昭和三十三年、道学大釧路分校を押し出され(それでも学士さま)、
統橋少一教授と近藤貞雄校長の陰謀に負け、不安と希望の交叉する中
での就職だった。詰襟姿で張り切ったの任務が始まった。板カマボコ
宜しく職員室の机にへばり付き、仕事をやる振りの日が二、三日もあつ
たらうか。校長の呼び出しを受け『子供たちと遊ばんのかい？君は体
育教師だろ』と。自分の仕事は電灯の下で出来る。子供たち

音別中学校 校歌

詞 作 雄 貞 藤 近
曲 作 夫 芳 松 植

Moderato

あ かる く き よ く ひ と す じ - に
 ま な び の に わ - の う ち - そ と に
 ま こ と を も と め び を さ ぐ - り
 す す む わ れ ら の せ い し ん の あ、
 ゆ た か な り し ん り か ん

音別中学校校歌

- 一 (知 育)
 - 一 明るく清く ひとすじに
 - 学びの庭の 内外に
 - 誠を求め 美をさぐり
 - 進む我等の 精神の
 - ああ豊かなり 真理観
- 二 (体 育)
 - 親潮あらう 北海に
 - 阿寒おろしの 朔風に
 - 朝な夕なに 鍛えたる
 - 伸びる我等の 肉体の
 - ああ躍動の 健康美
- 三 (徳 育)
 - 楽しく集い 和やかに
 - 秩序の歩み 健やかに
 - 幸ある生活 希いつつ
 - 礎く我等の 日常の
 - ああ誇りあり 音別校

釧路市立幣舞中学校

(開校 平成十六年四月一日)

本校は、平成十六年四月一日、釧路市立弥生中学校と釧路市立東中学校が統合して、釧路市立幣舞中学校として開校した。
 両校は釧路市で最も古い、各々五十七年の歴史と伝統を持った中学校であったが、近年の全国的な傾向である「少子化」の波には勝てず、統合に至った次第である。

初代校長明日見昌則先生、開校時、一三学級、四二〇名である。

校名の由来

統合にあたり、校名を弥生中・東中両校下の小中学生と保護者を含む地域住民から広く募集することになった。その結果六十件、四十案という多くのアイデアが寄せられた。

統合準備委員会で数件に絞り、その中で全国どこにもない名前、釧路市のシンボルである橋の「幣舞」が選ばれた。ヌサマイの意味も学びの場にあっており、校舎の七つのアーチも両校の架け橋であることに通ずるのではないかと、の全員一致の結論であった。

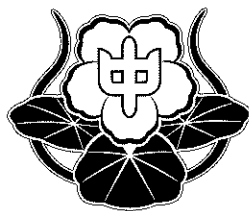
校 訓

不撓不屈

学校教育目標

- ◎ 健康安全に心掛け、強健な体を持つ人
- ◎ 能率を考え、知識と知恵を活かせる人
- ◎ 広い視野を持ち、常に生活の前進を図る人
- ◎ 自他を認め合い、大きな心で愛せる人

校章とその意図



校章と知恵「探究心」「向上心」「思いやりの心」を表している。
 ・二本の蔓は、母校である弥生中学校と東中学校を表し、両校を土台にして幣舞中学校が誕生したことを表現している。

校歌の制定

校歌は平成十六年四月一日、開校に合わせて、校訓・学校教育目標・校章校旗とともに制定された。宮川 正男作詞、石丸 基司作曲による作品である。

校歌の制定に当たっては、十三案、作曲一名の応募があり、厳選の結果、作詞は元東中学校教諭で旭小学校長を務めた宮川正男先生、作曲は同じく、東中学校卒業生の作曲家石丸基司氏に決定したが、両氏とも東中学校に因縁の深い方たちである。

校歌は、二十一世紀に生きる生徒に知性と勇氣、思いやり、そして未来に託す気持ちと歌詞とメロディに格調高く表現されている。

参考資料 平成十六年度 学校要覧